

「土砂災害に強い地域づくり」

広島県 広島市立美鈴が丘中学校 1年 <sup>たにもと</sup>谷本 <sup>あやか</sup>彩華

私が住んでいる河内地区では、今から 17 年前の 6 月 29 日に大雨による土砂災害が発生したそうです。祖父や祖母は当時自宅にいて、あたりが真っ暗になり、雨の音でとても怖かったと言っていました。近所の人達も祖父母の自宅に避難してきたそうです。私の家のすぐ近くの山も土砂くずれが発生し、何名かの方が亡くなり、倒壊になった住宅も何軒もあったそうです。災害が発生した後も、私の通っていた河内小学校の体育館で避難されている方がたくさんいたそうです。私はこの災害が起きた時は、まだ生まれていなかったのですが、自分の家の身近な所でこのような災害が起きた事が信じられませんでした。

しかし、2 年前の 8 月 20 日の夜に豪雨と雷で停電になり、大雨の恐ろしさと不安と電気のない不便さで夜、眠れませんでした。その次の日、テレビで安佐南区の土砂災害により建物が倒壊したり、行方不明になっている方がいる事を知りました。その時、豪雨災害の恐ろしさを目の当たりにして、他人事ではないという事を感じました。母も安佐南区役所に勤務しており、被災者の方が避難所で生活して、自宅に帰るのがこわく、夜、少しの雨の音でもこわいと話されていると言っていました。

私はこの 8 月の豪雨災害を通して自分にできる災害の対策について考えました。

まず、自分の家のまわりに危険な所がないかを確認してみました。自宅の上には山があり、またその山を調べると土砂災害特別警戒区域であることがわかりました。この特別警戒区域というのは土砂災害が発生した場合、建物に損壊が生じ住民の生命に危害が生ずる恐れがあると認められる区域であるということが分かったので雨が降った時には、なるべくその山からはなれた 2 階で寝るように心がけました。

また、8 月 20 日の豪雨の時に電気のない生活を経験したので、懐中電灯を用意したりしました。さらに母が仕事で避難所に弁当を配っていたことを聞き、保存食や水を用意しようと思いました。

私の住んでいる河内地区では忘れまい豪雨災害ということで毎年、公民館で慰霊祭を行っており、私も小学校 6 年生の時に、その慰霊祭に参加し、献花をしました。河内地区では地域全体で 6 月 29 日の災害のことを決して忘れず、災害の時の対応の方法について検討している事を知りました。地域全体で、災害が発生した時の連絡方法を密にとったり、災害が起こりやすいところを地図にして作成したりして、災害に強い地域を目指しているように思いました。

また、私は町民運動会の時に、被災された方をタンカで運ぶという競技に参加しました。参加することによって、どういうふうに運ぶかを学ぶ事が出来たので、今後こういう災害に対する対応の体験には積極的に参加して、備えたいと思いました。

これからは地域の防災の取り組みを調べたり、参加したり自分の住んでいる河内の土砂災害の警戒区域等を知ることによって自分や家族・地域の人達の命を守るようにしていきたいと思いました。また、大雨の時に危険を感じたら早めに行動にうつして、大切な命を大事にしていきたいです。保存食・水等の防災グッズを常に自宅に準備しておきたいと思いました。さらに地域の方で困っておられる方がいたら助け合い支え合ってみんなで災害に備えたいと思いました。

土砂災害による被害をうけた河内地区のように地域全体で災害に取り組む姿勢で、土砂災害の被害をうけていない地域でも積極的に防災意識を高めていけば災害に強い広島県を目指していけると思いました。

今、いろいろな所で異常気象になり、豪雨災害が発生しているので、ひとごととは思わず、土砂災害についての知識をみんなが共有して一人一人ができることから始めていけばいいなと思いました。また、どこかで災害が起き、困っている人がいればボランティアとして家の中にある土砂やがれきなどを取り除く手伝いをして、少しでも役に立てばいいなと思いました。